



ぶらり相生第 27 号

平成 30 年 7 月

「相高北側に中世山城存在す」

毎月、朝の通勤・通学時間に、JR 相生駅で本校生徒と山手 1 丁目自治会の方で挨拶運動を行っています。その JR 相生駅北側から北東に「駅北第一公園」があります。そこを起点に登城口になっているのが、光明山城こうみょうせんじょうです。別名紫雲城といわれています。着工は建武年間（1334～1338 年）といわれています。標高 260.9m にあり、遺構として本丸（東西 24m、南北 14m）、二の丸、曲輪跡くるわ（7 個）、石積、土塁、堀切（三重の空堀）、畝状堅堀群うねじょうたてぼり、井戸（円形・石組）が遺っています。



築城したのは、鎌倉幕府を倒すのに貢献した赤松則村のりむら（円心）で、初代城主は家臣の海老名弾正景知えびなだんじょうかげともです。後、宇野氏、赤松氏が在城し、永禄 9（1566）年、この地域の郡代である内海範秀うちみのりひでが城主として、室山の浦上宗景うらかみむねかげを攻める先陣をつとめて活躍します。しかし、世にいう秀吉の“播磨侵攻”により落城してしまいます。

相高の北側に、中世山城としてしっかりとした構造のものが存在し、歴史の表舞台にも登場した光明山城があったのです。相高近くの鮎婦川ほとりに光明山の由来に関する石碑（写真）があります。